

KRICEキャンパス鹿児島

令和6年度

授業交流(単位互換) コーディネート科目

受講生募集!!

鹿児島大学会場
鹿児島体育大会会場
鹿児島国際大会会場
志学館大会会場
鹿児島県立短期大会会場
第一工科大学会場 等

授業科目

1. 方言コンテンツを作る
2. 避難生活に備える
3. 安全で楽しい海浜活動および海洋スポーツ活動の理論と実践
4. 異文化コミュニケーション論
5. 発達心理学
6. かごしまフィールドスクール～薩摩スチューデントに学ぼう～
7. 「医・食・健康2024」
8. グローカルに学ぶ人文学
9. 人間と文化
10. 人間、動物、環境の健康：One Healthの基礎

開設大学

- 鹿児島大学
鹿児島大学
鹿児島体育大学
鹿児島国際大学
鹿児島国際大学
鹿児島国際大学
鹿児島純心大学
志学館大学
鹿児島県立短期大学
第一工科大学

■学生の皆様へ

- ・学校によっては取扱いに違いはありますが、単位を修得すれば、所属大学等の単位として認められますので、申し込む前に所属大学等に確認して、お申し込みください。
- ・この他にも多数の単位互換科目がありますので、詳しくは、所属大学等へお問い合わせください。
- ・開設大学と開設場所は、異なる場合があります。

■一般の皆様へ

- ・左記8の科目は、一般の方も無料で聴講できます。
- ・授業科目開設大学へお気軽にお問い合わせください。
- ・(単位認定や修了書の発行はいたしませんので、ご了承ください。)

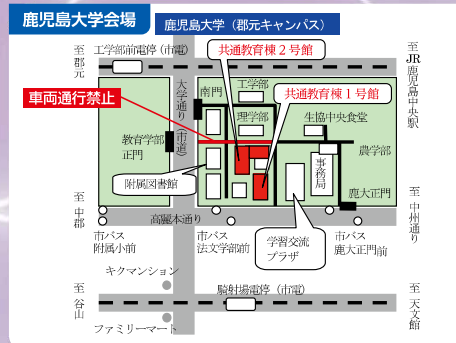
主催：大学地域コンソーシアム鹿児島
連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30
TEL:099-285-7351 FAX:099-285-8808
E-mail:kkoyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp

全科目に共通のお知らせ

■ 教室の収容人員の関係で、定員に達し次第締め切らせていただきます。 ■ 各会場へは、公共交通機関でお越しください。

会場のご案内



鹿児島体育大学



鹿児島国際大会会場



志学館大会会場



第一工科大学会場



鹿児島県立短期大会会場



「KRICEキャンパス鹿児島」について

「KRICEキャンパス鹿児島」は、鹿児島県内の6大学、4短期大学及び1高等専門学校が実施している単位互換制度です。(注1)
「KRICE」は、Kagoshima(鹿児島) Regional(地域) Intercollegiate(大学間) Credit(単位) Exchange(互換)の頭文字をとった名称です。
この単位互換制度は、各参加大学等が提供している地域性や独自性豊かな特色ある授業科目の中から、希望する科目を、科目開設大

学等(注2)で履修し、修得すれば所属大学等において単位として認定されます。
なお、検定料、入学料及び授業料は無料です。(但し、科目により所定の実習費等が必要な場合があります。)
また、コーディネート科目の他にも多数の単位互換科目がありますので、詳しくは、所属大学等へお問い合わせください。

- (注1) 参加大学等：鹿児島大学、鹿児島体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心大学、志学館大学、第一工科大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校
- (注2) 科目開設大学等：単位互換制度に伴い、授業科目を提供する大学等

大学地域コンソーシアム鹿児島

連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係
TEL:099-285-7351 FAX:099-285-8808

科目名 方言コンテンツを作ろう

授業概要

この授業では、方言記録保存活動の一環として、フィールド調査に基づいて方言動画を作成し、配信することを目指す。

現在、鹿児島県内の方言は、消滅の危機に瀕している。その土地のことばは、その土地の文化財であり、保護し保っていく努力が必要である。

この授業では、鹿児島県内の方言を使用した動画を作成し、方言の記録保存（アーカイブ化）をおこなう。まず、フィールドで取材と撮影をおこない、動画の素材を得る。そして、その動画を方言ベースで編集する。方言の録音、標準語訳、方言解説は、ネイティブへの調査に基づいておこなう（方言調査）。

これらの作業を通して、言語文化への理解を深めながら、地域課題の解決に向けて自ら行動できる力を身につける。授業のスケジュールは、受講生と取材先と相談のうえ決定する。



▲ 動画作品

＜参考＞ 昨年度実施した動画作品が閲覧できます。【QRコード】

学習目標

- ・言語文化への理解を深める。
- ・言語の記録保存によって研究貢献および地域貢献をおこなう。
- ・地域課題の解決に向けて、自ら判断して活動できるようになる。

授業計画

- ・事前学習①ー概要説明、フィールド決め、アポイントメント取り等ー
- ・フィールド調査
- ・事後学習①&事前学習②ー動画編集作業、方言調査準備ー
- ・方言調査
- ・事後学習②ー方言ナレーション、字幕、方言解説の編集ー
- ・成果発表ー発表会、完成動画のネット配信ー

試験・評価方法

レポート(50%)、授業での課題への取り組み(50%)

担当教員 坂井 美日

開講場所 鹿児島大学郡元キャンパス(教室が決まり次第、お知らせします。)

開講期間 令和6年度前期(8月～9月を中心に、受講生および取材先と相談のうえ決定する)

開講時間 受講生および取材先と相談のうえ決定する

単位数 2単位

成績発表時期 12月中旬

定員 15名
受講希望者が定員を超えていた場合は、選考をおこなう。

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項 ◆一般の方の聴講：不可
◆申込先：所属大学等
◆申込期限：7月3日(水)
◆連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係 電話099-285-7351
◆対面授業の予定であるが、適宜遠隔(Zoom等)に切り替える。

科目名 避難生活に備える

授業概要

「災害時に自らが生き抜く素養」を身につけるためには、平時から災害に備えてさまざまな想定を行い、それらにおける対策を丁寧立てかつ的確に実行できることが不可欠であることから、災害に係るさまざまな事象を理解し、そこに内在する特徴や課題について分析的に整理するとともに、実践的な活動を通じて、「生き抜く」こと、「健康を維持する」ことにかかわる知識・技術・態度を身につけることが重要である。

学習目標

- ・避難生活について、過去の災害事例等の解説にかかわる講義や自己演習を通じて、実態を把握し、地域に応じた課題を指摘できる。
 - ・避難生活を生き抜くことにかかわり、実践的な活動を通じて、野外活動の知識と技術を修得できる。
 - ・避難生活を健康維持しつつ送るためにも、平時の健康管理も含めて、基本的な知識を修得できる。
 - ・避難所生活にかかわり、具体的な状況下での避難所運営等をグループ討論しその成果を発表できる。
 - ・野外活動、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成できる。
- テーマ別に編成されたグループで、これら5つの学習目標を達成できる。

授業計画

1. 7月13日(土) 事前説明会-オリエンテーション-
- 第1日目 8月19日(月) 鹿児島大学図書館前 8:50集合、9:00バス出発
2. 「霧島市における避難生活への備え」
3. 「救急救命講習①」
4. 「救急救命講習②」
5. 「過去の災害における避難生活」
- 第2日目 8月20日(火)
6. 「災害時にも生き抜くことができる野外生活」
7. 「野外生活演習①ー身近なものでつくる生活用具とロープワーク」
8. 「野外生活演習②ー火起こし体験と野外調理」
9. 「野外生活演習③ー快適な生活空間づくり」
10. 「平時の健康管理と、避難生活時の健康維持」
11. 「健康生活演習ー衛生対策、ストレス対策、身体機能低下対策」
- 第3日目 8月21日(水)
12. 「避難所運営演習ー収容可能人数(定員)の設定等」
13. 発表準備ー避難所レイアウト実習、施設調査
14. 発表会
15. まとめー成績評価等について

試験・評価方法

授業への取り組み40%、発表内容30%、レポート30%として評価を行い、それらを集計して最終評価とする。
(野外生活演習、健康生活演習、避難所運営演習を通して、指定施設での避難所運営について調査し、グループ討論・発表とレポート作成を行う。)
なお、発表及びレポートを合わせて評価するため、どちらか一方が欠けた場合、評価対象外とする。提出期限までにレポートを提出しなかった場合、評価対象外とする。

担当教員 岩船昌起、川畑和也(鹿児島大学)、稲留直子(鹿児島国際大学)

開講場所 鹿児島大学、霧島市消防局北消防署、鹿児島県霧島ふれあいセンター

開講期間 7月13日(土)、8月19日(月)～8月21日(水)の宿泊形式

単位数 2単位

成績発表時期 12月

定員 40名 ※先着順(バス乗車の都合上)

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項 ◆一般の方の聴講：不可
◆申込先：所属大学等
◆申込期限：6月28日(金)
◆連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係 電話099-285-7351
◆その他：宿泊経費等が3,000円程度必要になります。

科目名 安全で楽しい海浜活動および海洋スポーツ活動の理論と実践

授業概要 鹿屋体育大学の海洋スポーツセンターにおいて、海浜および海洋スポーツ活動を楽しみながら、安全な活動のための基礎知識と基礎技能を習得することを目標とします。活動種目として、主にパドルスポーツ、スノーケリング、セーリングを扱います。また、海という自然環境での活動をとおり、様々な活動の意義を自ら見出すことも狙いとしています。

- 学習目標
- ①安全な活動のための、気象・海象の基本的な知識を整理・理解する。
 - ②参加者自らの体験をとおり、海浜活動・海洋スポーツ活動の意義を理解する。
 - ③海浜活動におけるリーダー的役割を果たすことのできる見識と実践力を養う。

- 授業計画
- 1. 安全な活動のための気象・海象の基本的な知識（講義）
 - 2. カヌーやSUPの基本的なパドルングの体験（実技）
 - 3. 海浜活動・海洋スポーツの安全とヒヤリ・ハットと事例（講義）
 - 4. スノーケリングおよびスキndaイビング（実技）
 - 5. 海浜活動・海洋スポーツの活動原則とレスキュー（講義）
 - 6. カヌーやSUPのセルフレスキューとツーリング計画（実技）
 - 7. セーリング種目体験①（実技）
 - 8. セーリング種目体験②（実技）
- ※天候によって授業計画が影響を受けることがあります。

試験・評価方法 成績評価は、実技（60点：20点×3種目）、総括レポート（40点：20点×2回）より行います。なお、全日程出席した受講生のみを成績評価の対象とします。

担当教員	中村 夏実、榮樂 洋光、笹子 悠歩
開講場所	鹿屋体育大学海洋スポーツセンター（鹿屋市高須町） ※荒天時は、鹿屋体育大学および屋内実験プールでの実施場合があります（鹿屋市白水町）。
開講期間	令和6年8月19日（月）、20日（火）
開講時間	1日4時限分（8:30～15:50）×2日間
単位数	1単位
成績発表時期	10月上旬
定員	10名
対象	◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流（単位互換）の参加大学等の学生 [大学の学生（専攻科生・大学院は含まない）、短期大学の学生（専攻生を含む）、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]
特記事項	◆ 水および海に浸かることが禁忌でない者を対象とします。 ◆ 以下について各自準備ください。 ・ 海浜および海洋スポーツ活動を実施するための服装（露出が少ない服装、長袖シャツとロングス（パンツなど）（水着一着で海に入ることはありません）） ・ 帽子 ・ 濡れても良い靴（クロックス等、サンダルは不可） ・ その他：タオル、着替え、必要に応じて日焼け止めクリーム、サングラス等 ・ 筆記用具 ・ 飲み物、昼食（海洋スポーツセンター内に飲料水の自動販売機はありますが、近くに飲食店等はありません）

科目名 異文化コミュニケーション論

授業概要 地球上の誰もが文化の違いを超えて心を通わせ相互に理解しあえる方法があれば、これほど素晴らしいことはないが、現実の世界で起きている様々な出来事を見るにつけ、そんな魔法のような方法はどこにも存在しないことを認めざるを得ない。しかし、私たちが生きている21世紀のグローバル化した世界の持続可能性は、多様な文化の共存を認めあい、異文化間コミュニケーションの困難を克服しようとする各人のたゆみない努力にかかっていることもまた厳然たる事実である。文化とコミュニケーションをめぐる多様な概念を理解した上で、その理解を異文化間コミュニケーションの様々な場面で活用し問題解決を図ることができるマインドセットを身につける。
毎回授業内で小グループに分かれてディスカッションを行い、異なる意見に触れることを通して自分の考えを深めてもらう。授業を通して実際にコミュニケーションスキルが高められるようにする。

- 学習目標
- 1. 異文化接触の場面でのどのようなコミュニケーション不全が起こりうるかを説明できる
 - 2. 自分自身の文化的背景やその文化の特徴を客観的に把握する
 - 3. 異なる文化的背景を持つ相手とも積極的に意思疎通を図ることができる
 - 4. 文化の違いを認めあいながら議論や交渉に参加し自分の意見を述べるができる

- 授業計画
- 第1回 文化とは？
 - 第2回 文化の可視性と不可視性
 - 第3回 文化的偏見とステレオタイプ
 - 第4回 多民族・多文化・多言語社会
 - 第5回 大学（学校）におけるコミュニケーション
 - 第6回 性別役割分担と異性間コミュニケーション
 - 第7回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(1):ジェンダー
 - 第8回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(2):エスニシティ
 - 第9回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(3):階級
 - 第10回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(4):宗教
 - 第11回 メディアと表象
 - 第12回 異文化コミュニケーション論で時事問題を分析する
 - 第13回 ケース・スタディ(1):カルチャーショックと異文化受容
 - 第14回 ケース・スタディ(2):ステレオタイプと偏見を超えて
 - 第15回 まとめ

試験・評価方法 レポート、授業中の意見発表および発言

担当教員	小林 潤司
開講場所	鹿児島国際大学
開講期間	8月上旬の4日間
開講時間	9:10～16:10（1限～4限）
単位数	2単位
成績発表時期	9月上旬
定員	20名まで
対象	◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流（単位互換）の参加大学等の学生 [大学の学生（専攻科生、大学院は含まない）、短期大学の学生（専攻科生を含む）、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]
特記事項	◆ 申込先：単位互換生は所属大学等 ◆ 申込期限：7月12日（金） ◆ 連絡先：鹿児島国際大学教務課 [電話 099-263-0706] ◆ ハイブリッド授業（対面＋オンライン）で実施する予定です。ただし、風水害などで対面授業が実施できない場合は、全てオンライン授業で行います。

科目名 発達心理学

授業概要

発達心理学は、受精から死に至るまでの発達を研究する心理学の一分野である。私たちは自身に対する認知や他者との関係性を変化させてきた。もちろん、これからも変化させていく。認知や関係性のみならず、学習の成立や運動スキルの獲得にも発達が関係してくる。すなわち、発達心理学を学ぶことで、自身や他者を含めた人間への理解を深めることが可能になる。そして、それぞれの発達段階にある他者に対して、臨症的な支援を行うことが可能になる。

本授業では、発達理論だけでなく、人間の発達について、神経系、視知覚系、認知機能、思考、言語における発達と研究成果のみならず、子育てに関する悩みや虐待、発達障害など近年の問題についても取り上げる。さらに、本授業の学びを応用することを目的に、発達心理学の知見をこれまでの自身の体験や他者との関係性と関連づけ、それらを表現したり、他者の話を聞いたりする活動を行う。

学習目標

1. 各発達段階の発達特性を理解し、具体的に述べるができる
2. 各発達段階の発達特性を踏まえた上で、自身の体験や他者との関係性について表現することができる
3. 自身や他者との関わり方について、各発達段階毎の発達特性を踏まえて、自身の考えを表現することができる

授業計画

- 第1回 発達・発達心理学とは
- 第2回 生涯発達
- 第3回 神経系の発達
- 第4回 視知覚の発達
- 第5回 認知機能の発達
- 第6回 思考の発達
- 第7回 言語の発達
- 第8回 アタッチメント
- 第9回 子育ての悩み
- 第10回 子どもの虐待
- 第11回 児童～青年期の悩み
- 第12回 発達障害1:自閉スペクトラム症
- 第13回 発達障害2:注意欠如・多動症
- 第14回 発達障害3:限局性学習症
- 第15回 神経関連疾患

試験・評価方法

毎時間の小レポート、授業中の意見発表および発言

担当教員 永富 大輔

開講場所 鹿児島国際大学

開講期間 8月上旬の4日間

開講時間 9:10～16:10(1限～4限)

単位数 2単位

成績発表時期 9月上旬

定員 100名まで

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項 ◆ 申込先: 単位互換生は所属大学等
◆ 申込期限: 7月12日(金)
◆ 連絡先: 鹿児島国際大学教務課 [電話 099-263-0706]
◆ 原則、対面授業ですが、急遽オンライン授業へ切り替わる場合もあります。

科目名 かごしまフィールドスクール～薩摩スチューデントに学ぼう～

授業概要

この講義では、鹿児島の現場を体験・体感させるボランティアなフィールド体験学習を行います。実施時期は、受け入れ地域の状況により日程は多少変化します。

地場産業、農業、商業、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、その地域に内在する特徴や住民の暮らし、今後の方向性への住民意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点で「地域、人、環境、産業」などを発展させる方策について考えます。

この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけます。

具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進させます。また、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。

学習目標

1. 鹿児島を歩いて体験する。
2. 目で見て聞いたことと書かれてあることを結びつける。
3. 集団で行動し、学び、討論し、まとめる能力をつける。
4. 他大学の学生と交流し、友達になる。

授業計画

第1日目 鹿児島国際大学にて、講義及びグループ分けを行い、グループ別討論で、グループごとの調査・発表テーマ(仮)を確定。

第2日目 ①維新ふるさと館→②薩摩藩英国留学生記念館→③若き薩摩の群像
・ 早朝に鹿児島中央駅をバスで出発、指定地域の施設①に到着後、現地を見学。
・ グループごとの調査テーマにもとづき、聞き取り、調査を行う。
・ 昼食後、バスで、③に移動。現地の関係者の全体説明をうけ、聞き取りを行う。
・ ②での見学と聞き取りのあと、バスで鹿児島中央駅に戻り、③でアンケート調査。

第3日目 ④尚古集成館→⑤異人館→⑥ガラス工場→⑦関吉の疏水溝
・ 早朝に鹿児島中央駅をバスで出発、指定地域の施設④に到着
・ 学芸員の説明をうけ、テーマにもとづき、④⑤⑥の見学調査を行う。
・ 午後にバスで⑦に向かい、現地ガイドの説明を受け、世界遺産になった理由の聞き取り調査を行う。
・ バスにより鹿児島中央駅に戻る。

第4日目 鹿児島国際大学にて、グループ学習・発表準備、発表 総括講和
※授業計画については、参加者数等により、変更になる可能性があります。

試験・評価方法

期末レポート、研修への参加態度

担当教員 西原 誠司、森 孝晴

開講場所 鹿児島国際大学、鹿児島市、いちき串木野市

開講期間 8月中旬の4日間

開講時間 受講生および訪問先と相談のうえ決定します。

単位数 2単位

成績発表時期 9月上旬

定員 10名まで(定員を超えた場合は抽選となる場合があります)

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項 ◆ 申込先: 単位互換生は所属大学等
◆ 申込期限: 6月28日(金)
◆ 連絡先: 鹿児島国際大学教務課 [電話 099-263-0706]
◆ 原則、対面授業ですが、風水害などで対面授業が実施できない場合は、オンライン授業に切り替えて行います。

科目名 「医・食・健康2024」

授業概要 講義ごとに「医・食・健康」にかかわるテーマを扱い、学生自身が主体的に考え、広い視野と考察する力を身に付ける。

学習目標 大学における学修の姿勢や方法、多様な観点や考察する力を身に付けることがねらいである。
1. 学んだことを基に自分の意見を述べるができる。
2. 大学における学修する力を身に付け、自身の学修に活かすことができる。

授業計画

- ① 未来につなげる、和食とうま味【真遼久美】
- ② 家族とは【福岡美和】
- ③ これからの食生活【山元有子】
- ④ 自分の健康を管理しよう【鞍掛洋美】
- ⑤ 「もしバナ」ゲームを通してACP(アドバンス・ケア・プランニング)を考える【萩原久美子】
- ⑥ ①食品の遺伝子検査、②エビデンス・ベースド・ニュートリション【松元圭太郎】
- ⑦ プレスト・アウェアネスのすすめ【檜垣富貴子】
- ⑧ 「歳時の食べごと」から検証する食文化の知恵【川野美智代】

試験・評価方法 講義ごとの課題による総合評価とする。

担当教員 看護栄養学部教員8名によるオムニバス形式

開講場所 鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟1号館4階common room 3

開講期間 9月～12月の土曜日、1講義2コマの全16コマ

開講時間 1日1講義(2コマ)【午前】9:00～12:10
1日2講義(4コマ)【午前】9:00～12:10、【午後】13:00～16:10

単位数 2単位

成績発表時期 2月中旬

定員 15名程度(受講者5名未満の場合は開講しません)

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項 ◆ 特になし

科目名 グローカルに学ぶ人文学

授業概要 グローカル(glocal)とは、グローバル(global 地球規模の)とローカル(local 地域の)が合わさった混成語です。グローバル化が進む現代は地域の特性を大事にしながらも、地球規模の視野を持つことが求められる時代です。本講義では、言語、文化、歴史、地理といった各専門分野の講義を通じて、地域と世界がどのようにつながっているか、グローバルな事柄が特定の地域とどのように関わっているかを考えていきます。

学習目標 地域と世界がどのようにつながり、グローバルな事象が特定地域とどのようにかかわっているかを理解する。

授業計画

〈地域〉

- ① 「世界史から見た明治維新」原口 泉 8/27(火)1限
- ②③ 「人口現象のグローカル 鹿児島県の事例」宗 建郎 8/27(火)2～3限
- ④ 「鹿児島の安全保障を考える」茶谷誠一 8/27(火)4限

〈歴史〉

- ⑤ 「牧野伸顕の事蹟」茶谷誠一 8/28(水)1限
- ⑥⑦ 「鹿児島から満洲へ 中国の村の生活世界」横山政子 8/28(水)2～3限
- ⑧⑨ 「現代イギリス社会に見る帝国の過去」溝上宏美 8/28(水)4限、8/29(木)1限

〈ことば・文化〉

- ⑩ 「琉球の文学と鹿児島」鏑 武彦 8/29(木)2限
- ⑪ 「変わりゆく鹿児島方言」上林 葵 8/29(木)3限
- ⑫ 「特攻隊と川端康成の鹿屋体験」三浦 卓 8/29(木)4限
- ⑬⑭ Global Language and Cultureマーカス シオボールド 8/30(金)2～3限
- ⑮ 「ウィリアム・シェイクスピアと薩摩芋」高根広大 8/30(金)4限

試験・評価方法 レポート ※詳細は各担当教員が説明します。

担当教員 志学館大学人間関係学部人間文化学科教員

開講場所 志学館大学(教室:未定)

開講期間 8月27日(火)～8月30日(金)

開講時間 9:00～16:10(1限～4限)

単位数 2単位

成績発表時期 9月上旬

定員 50人

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]
◆ 一般の方(上記以外)。ただし、単位認定なし。

特記事項 ◆ 一般の方の聴講:可
◆ 申込先:単位互換生は所属大学等、一般の方は下記連絡先
◆ 連絡先:志学館大学学務課【電話 099-812-8503】

鹿児島県立短期大学

科目名 人間と文化

授業概要 県立短大3学科の教員7名が、それぞれの分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を、異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に、多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。

学習目標 人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。

授業計画

- 第1回 日本語と英語のボキャブラリーについて(1) (遠峯)
- 第2回 日本語と英語のボキャブラリーについて(2) (遠峯)
- 第3回 企業・政府・文化(1) (船津)
- 第4回 企業・政府・文化(2) (船津)
- 第5回 技術と経済の歴史 (山口)
- 第6回 現代社会における技術と経済 (山口)
- 第7回 スキタイの文化(1):歴史 (土肥)
- 第8回 スキタイの文化(2):黄金の文化 (土肥)
- 第9回 アートと文化 (北)
- 第10回 デザインと文化 (北)
- 第11回 日本の学校給食と食育:学校給食の歴史より (中西)
- 第12回 鹿児島の学校給食と食文化:郷土料理に魅せられて (中西)
- 第13回 若者と選挙(1):18歳選挙権から考える (山本)
- 第14回 若者と選挙(2):インターネット選挙から考える (山本)
- 第15回 まとめ
(順番、内容を変更することがあります)

試験・評価方法 レポートの提出(85%)と毎回の授業の感想・意見等(15%)で評価します。

担当教員 遠峯 伸一郎、船津 潤、山口 祐司、土肥 克己、北 一浩、中西 智美、山本 敬生、岡村 俊彦

開講場所 鹿児島県立短期大学 3号館第10講義室

開講期間 令和6年9月11日～9月20日(9月14、15、16日を除く)

開講時間 18時～21時10分(19時30分～19時40分:休憩)

単位数 2単位

成績発表時期 11月～12月

定員 50名

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生

特記事項 ◆ 申し込み期限7月31日

第一工科大学

科目名 人間、動物、環境の健康: One Healthの基礎

授業概要 人間、動物、環境の健康が相互に関連しているOne Healthの概念を探索し、現代の大学生にとって関連性が高く興味深いグローバルヘルスの複雑な課題に包括的なアプローチを提供します。また、最新のトレンドや社会的課題に焦点を当て、批判的思考と問題解決能力を養い、多角的な視点からのアプローチを促します。

学習目標

- ① One Healthの基本概念を理解する。
- ② グローバルヘルスに関連する現代の複雑な課題について認識を深める。
- ③ 最新トレンドと社会的課題に対する理解を促進する。
- ④ 批判的思考と多角的な問題解決能力を養う。
- ⑤ 実践的な経験を通じて社会的責任とリーダーシップを発展させる。
- ⑥ 未来の健康課題に対する積極的な取り組みを目指す。

授業計画

- 第一回 コースの導入 - One Healthの概念と重要性
- 第二回 人間の健康 - 影響要因と公衆衛生
- 第三回 動物の健康 - 疫学と人間への影響
- 第四回 環境の健康 - 汚染、気候変動、生物多様性
- 第五回 病気の発生とグローバルパンデミック
- 第六回 持続可能な食料生産と栄養
- 第七回 抗生物質耐性の問題
- 第八回 最新トレンドと課題

試験・評価方法 授業への積極的な参加: 50% レポートの提出・発表: 50%

担当教員 馬 麗娜

開講場所 第一工科大学 1号館133講義室

開講期間 令和6年8月第三週の金、土曜日

開講時間 9:00～16:10

単位数 1単位

成績発表時期 10月～11月

定員 制限なし

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生

特記事項 ◆ 特になし